

令和7年度 特別養護老人ホーム 幸せの里 事業計画書

1.基本方針

「尊厳の保持」と「自立支援」を念頭に施設理念である「自分の親にしてあげたいお世話と自分が住みたいホームへの実践」につとめ顧客満足度の向上を目指します。施設選択のアピールポイントとして適切な感染対策を講じたうえで面会や外出について積極的に支援を行います。同時に安全面に配慮した清潔な生活環境の提供、季節ごとの行事、栄養バランスの整ったおいしい食事の提供等、現存サービスの拡充をはかることで盤石な施設体制の確立をはかっていきます。さらに施設外研修や自主学習の機会を推進支援し、サービスマナーを身につけ、高品質サービスを提供できるスタッフの育成を行い、地域に愛され、信頼され、選ばれるオンリーワン施設を目指します。

2.主要事項

- (1) 法令順守
- (2) 介護職員員の資質の向上と専門性の確保
 - ① 施設外研修への参加推進と施設内研修会の活性化
 - ② 感染管理体制の確立と非常災害計画の更新と周知
 - ③ ケアプランに即した生活支援、入所時からターミナル期へ段階に応じた適切なケアマネジメントの提供
 - ④ 身体拘束排除、高齢者虐待防止の徹底教育
 - ⑤ IT活用による記録時間の軽減、データ活用による介護支援の効率化
- (3) 働き方改革、同一労働同一賃金への対応
 - ① 適正な勤務管理によるサービス残業の防止と有給取得の推進
 - ② 勤務時間や勤務内容の明確化による正職員とパート職員の分別化
 - ③ 職務、職能に応じた人事考課体制の確立
 - ④ ハラスメント防止
 - ⑤ 知人、家族を誘いたい職場環境設定（人材確保強化）
- (4) 面会制限の緩和、外出支援
- (5) 空きベッド期間の短縮と加算項目追加による増収

1.通所介護事業（案）

地域のなじみの利用者がともに集い、語りあい、入浴や食事提供を支援することで在宅生活の継続を支援します。ウォーターベッド型マッサージ機や電磁治療器の利用を楽しみにされる方も多く、利用者ニーズ、地域ニーズに沿ったレクリエーションの提供を行うことで社会的孤立を妨げ、心身機能の維持向上を目指していきます。介護重度者の入院、施設入所や感染症罹患をおそれる利用控え、また令和6年は厳冬の影響もあり、1割減となった稼働率は依然改善されておらず、新年度こそ定員34名に対し70%の稼働、すなわち1日平均24名の利用達成を目指します。同時に地域高齢者の掘り起こしを行い、新規利用者の獲得につとめながら団塊の世代の多様なニーズを充足するサービス提供の拡充につとめていきます。

2.在宅介護支援センター（案）

法人全体のセールスマンとして対象者の掘り起こしを行う一方で、行政や地域民生委員、すこやかアドバイザーと連携をはかり、行政はもとより各種サービス事業所とも協調の上支援を行うという中核的役割を担い、多様なニーズの充足につとめていきます。高齢者人口の増加に伴い健康老人が増え、要介護認定者が思うように増えていない現況下でいち早く地域の現状を察知し、柔軟に対応できるよう準備体制を整えます。同時に大規模法人ですら利用者減がささやかれる中、他法人の活動状況にも目を向け利用者動向をつかむことで新規利用者獲得につとめます。また本来業務である地域の在宅介護支援の拠点として重要な役割を果たすために自己研鑽と組織基盤の強化、充実につとめることとします。

3.居宅介護支援事業所（案）

介護保険の屋台骨、居宅のケアマネージャーが持てる件数は1人あたりの最大35名。同一事業所利用の報酬減算や優良介護支援専門員の確保困難による事業所廃止や統合が増える中、一人主任ケアマネ体制を確固たるものとし、平均33件の最大定員確保にて安定増収をはかったうえで公正中立なケアマネジメント提供につとめます。同時に在宅利用者が可能な限り在宅で生活を継続するために主治医をはじめ、サービス事業所を繋げるコーディネーターとしての役割を十二分に発揮できるよう支援し、利用者が自らの判断で適切にサービスを利用できる「利用者支援」という方法でそれを実現します。利用者が自らの人生のために、介護サービスを活用して生きていく力が持てるようサポートしていきます。さらに在宅サービスにおける事業継続計画についても具現化をはかっていきます。

令和 7 年度 事業計画書

(ケアハウス すこやかハイツ)

社会福祉法人 愛和会

1.基本方針

安心して生活できる快適な住まいの提供と、個々の状況に応じた適切なケアマネジメントの実践につとめ、その人らしい暮らしの継続支援を目指します。

2.主要事項

- (1) 個別の状況に応じた適切なケアマネジメントの提供
- (2) 年齢差、要介護状況等に応じて必要な助言を行い、生きがい活動、介護予防的活動についても情報提供を行う。
- (3) 日頃より利用者、家族の意向を確かめ、必要時に適切かつ迅速なサービス案内、施設、入院先等々の紹介を行える体制づくり。

3.広報、運営について

安定的な定員確保の維持を最優先事項とし、その上で顧客満足度の向上を目指していく。28年の歳月を感じさせない清掃の行き届いた清潔なハードの維持、栄養管理はもとより、嗜好に配慮した良質な食事の提供、高品質なサービスマナーを保持したスタッフの気持ちよい接遇、さらに病院や買い物等の外出援助など、利用者の多様なニーズ[※]に対し、柔軟な姿勢で対応できる体制を構築し、求められる理想の施設へのマッチングをはかる。同時に利用者間の交流、外出、家族来園については体調チェックシートの活用等、感染対策の下、推進していくことで日常生活の活性化をはかる。

現行の生協の移動販売車については高評価を得られており、週 2 回の受入を継続する。また地理的障害を解決するため訪問診療を積極的に活用し、主治医、ケアマネージャーをはじめとする、専門職との連携を深められるようにする。利用者の虚弱化が進行し、ケアハウスでの生活が行き詰った場合、階下特養への入居を含め、中間施設の紹介や一時的入院の調整をはかり将来への不安を解消できるよう支援する。さらに法人内で合同研修の実施や協力体制を構築しながら、職員一同一層研鑽することに努めていく。